いわみざわの民話

第12回

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

ひどじょう物語①

数少ない岩見沢の名物として、ひどじょうをあげることができる。いまは亡くなられたが、短いその半生をかけたどじょうの神様とまで言われた遠藤精一さんがいてその養殖にたいへん努力されていたようである。ひどじょうというのは、ひと口にいえば赤どじょうのことで、健康で快適なときはいっぱんに赤色を増し、そうでないときは黄色がかってきて、しだいに白色になると言われている。しかし、不思議なことには、この魚の目はいつもパッチリと澄み切っていて黒色で、あたかも清純な少女のように見えるという。それはその通りで、これにはつぎのような物語があるのである。

岩見沢は開拓使がホロナイ炭山にいたる道路をきりひらくため、多くの労務者に湯浴みさせたところから由来して名づけられたといわれている。その頃の幾春別川には鮭がよくのぼったといわれ、昼なお暗い沢には熊や鹿が往来していたともいわれている。そんなことから、ここらあたりがアイヌの狩猟場として好適の場所で、多くのアイヌたちがさかんに駆け回っていたようである。そうした狩猟を業とするアイヌの中に、人のよさそうな老夫婦とメノコ、フミカがいた。

このアイヌ一家は、ささやかながら仕合わせな日々を過ごしていたといえる。ひとり娘のフミカは近郷のメノコの中では、美女の中の美女といわれ、老夫婦にとっては目の中に入れても痛くなかったのである。ところが、ちょうどその頃、鉄道建設のためこの地を訪れていた青年和人の技師に五一というものがいて、いつか二人は深い仲になってしまった。殊にアイヌ娘フミカは、おのれの清純な愛情をかたむけて、昼は昼でその仕事場を訪れ、夜は夜でその逢う瀬を楽しんでいた。もはや二人にとっては、結ばれる以外に道はなかったようである。

《続く》

第13回は「ひどじょう物語②」を紹介します。

発行・編集　岩見沢市総務部市民活動課

ひとの動き　平成23年1月31日現在

●住民基本台帳	人　口	総数 90,202人（前月比 −59）
		男 42,343人（前月比 −44）
		女 47,859人（前月比 −15）
	世帯数	42,328世帯（前月比 −14）

岩見沢市役所
〒068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
☎0126-23-4111　FAX 0126-23-9977
ホームページ　http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp
▶救急当番医ガイド　☎0126-23-5153
▶消防テレホンガイド　☎0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。

広報紙は綴じておきましょう